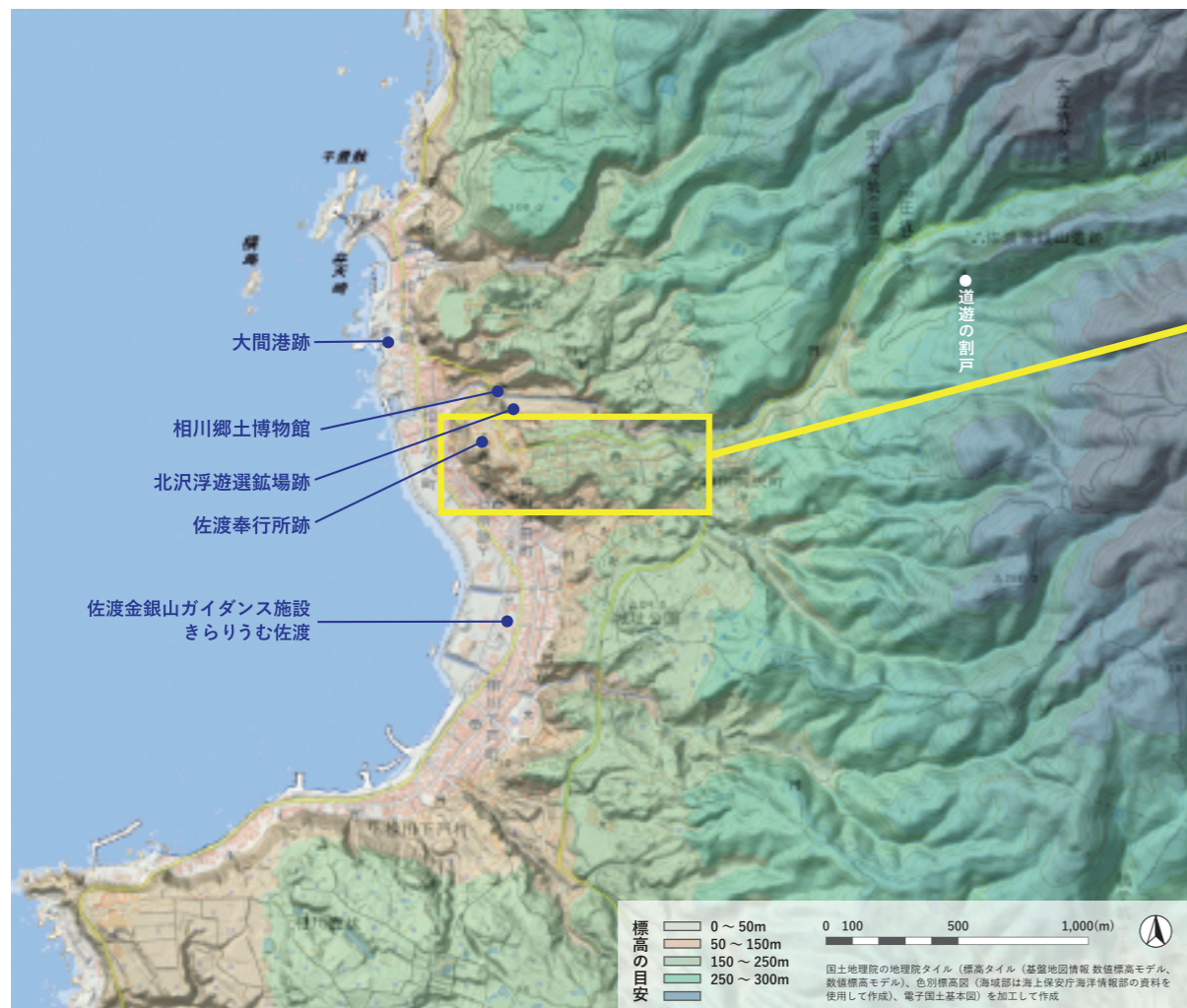


# 公開町家 旧深見家住宅

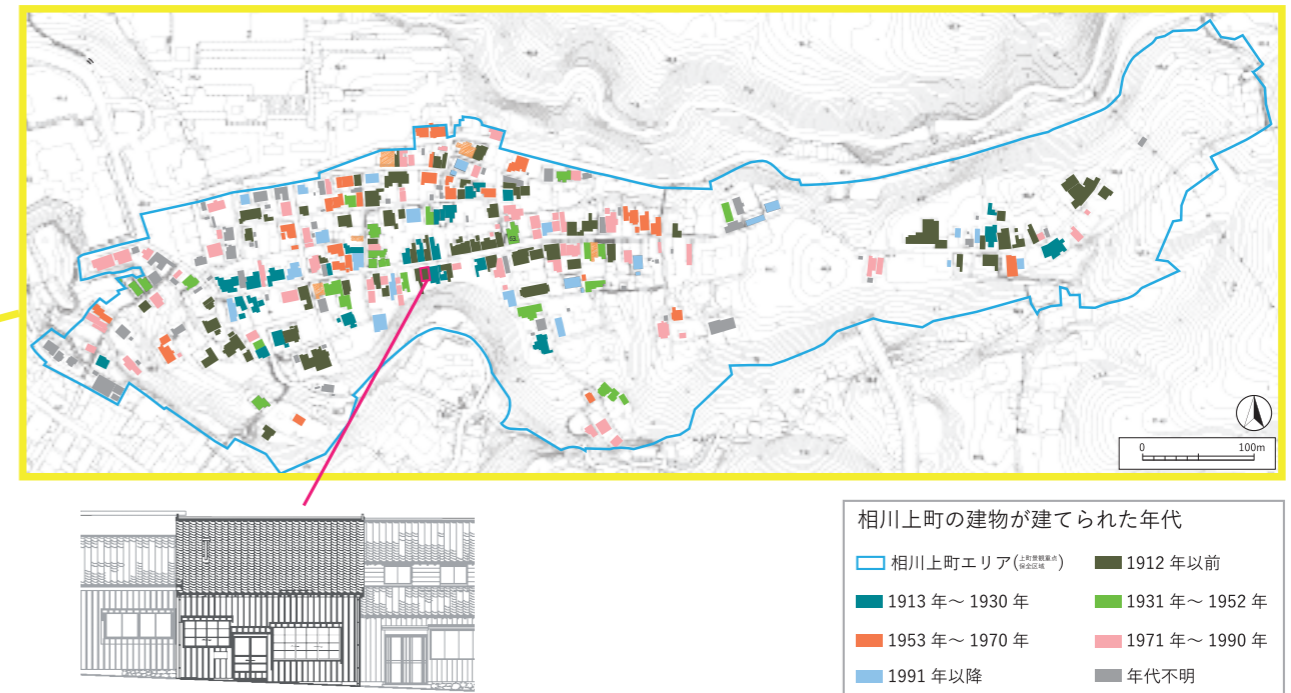
Former Fukami Residence,  
an old private town house. That is now  
open to the public.



## 建物見学や、まち歩きの休憩にご利用ください

**歩いて楽しい相川の町並み** 相川は、山と海に挟まれた複雑な地形につくられたまちです。海に近く標高の低いエリアを「相川下町」、海成段丘による台地の上のエリアを「相川上町」と呼びます。

相川上町は、16世紀末から始まった都市開発の基点となった場所です。尾根沿いの限られた土地にたくさんの住居を建てるために工夫された石組みや、江戸時代から現代に至るまでの各時代の建物が残り、鉱山都市として生きてきた相川の歴史ある景観を伝えています。思わぬところにある石磨や、建物の屋根越しに見える海など、歩いてみるとさまざまな発見があります。

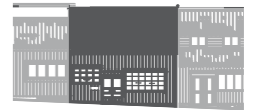


**旧深見家住宅** この建物は、相川地域によくみられる特徴をもつ伝統的な町家です。正確な建築年代は分からないものの、大正元年（1912）には既にあったと考えられます。長く空き家となっていました。平成28年（2016）に旧所有者からの譲渡を受け、その後、市が建物を修理し公開町家として整備しました。

出の短い庇が付く板張りの概観や、表から裏へ延びる通り土間、それに沿って居室や座敷が並ぶ間取りなどの形式がよく残ります。きらびやかな建物ではありませんが、この地域の、ある時代の普通の暮らしを伝える貴重な建物です。

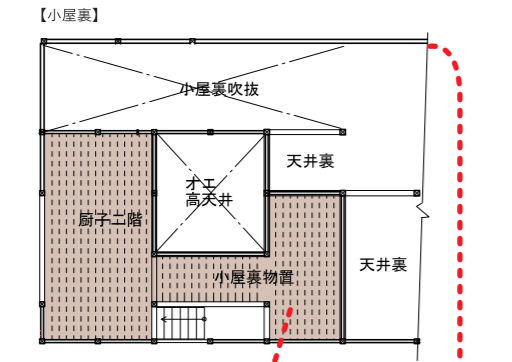
# 旧深見家住宅の間取りの移り変わり

建物に残る痕跡を調べてみると、昭和20年代後半に住宅としての役割を終えるまでの間に、何度か改造があったことが分かりました。それらを大きく4つの時期に分類し、主な変化を以下の図に記します。

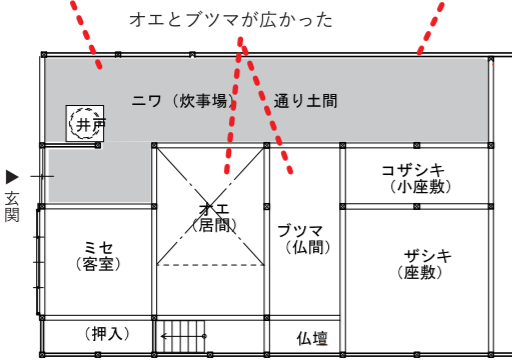


## ①当初（明治中期以前か）

佐渡の鉱山は、明治政府による官営の時代(明治29年(1896)まで)。



小屋裏物置が後ろの方にも延びていた  
通り土間の幅が広がった  
東側の隣家と壁を共有していた

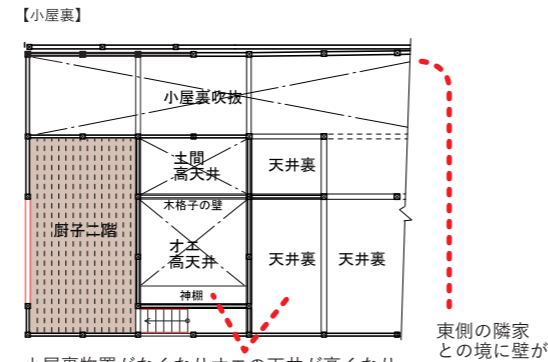


### 痕跡調査やその他調査から整理した、建物の価値

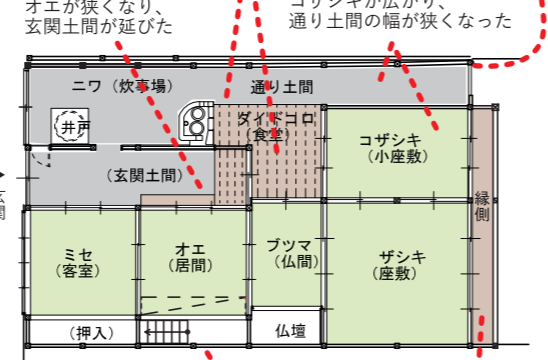
かつて鉱山関係者の住まいであった当家は、鉱山の大縮小期以降の大きな改変を免れ、建物の構えや外観、内部構成等に相川の伝統的な建築的特性を維持している。  
鉱山町相川の歴史の一端を語り、当地の伝統的な町家建築の特徴を表す建物として価値がある。

## ②明治中期～昭和初期

佐渡の鉱山は皇室から払い下げとなり、民間の経営に。



小屋裏物置がなくなりオエの天井が高くなり、間口いっぱいの神棚が架けられた  
東側の隣家との境に壁が設けられた  
プツマを狭くし床板張りの台所が作られ、カマドが据えられた

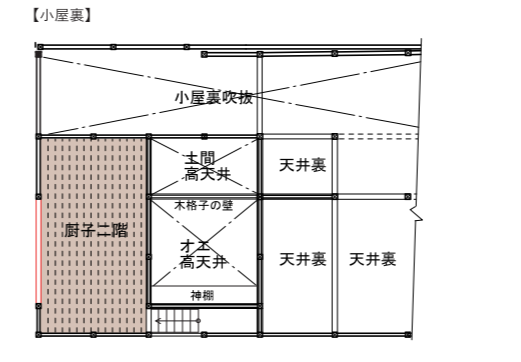


### 価値に基づく修理方針

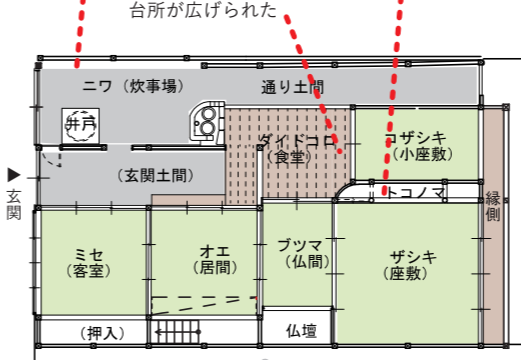
これまでの歴史を尊重しつつ、この建物が住宅機能を有し、かつもっとも活用された「昭和初期～昭和20年代頃まで」を保存修理の設定年代とする。

## ③昭和初期～同20年代後半

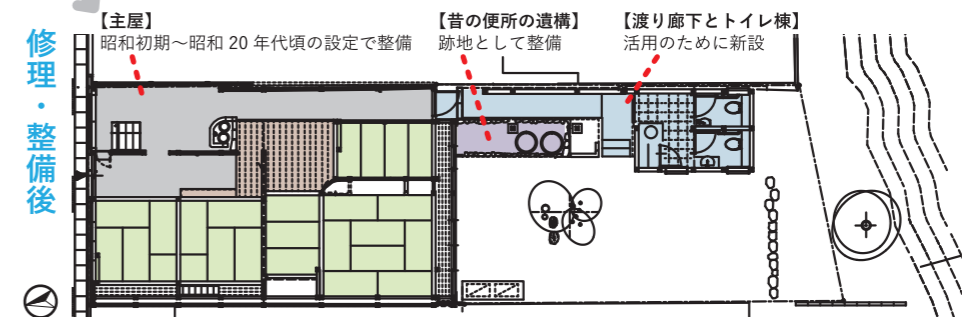
鉱山の大増産期。採掘が盛んに行われ、活況に満ちた時代。



東側の隣家との境の壁が一部撤去され、ニワが広がった  
ザシキにトコノマが設けられた  
コザシキがやや狭くなり、台所が広げられた

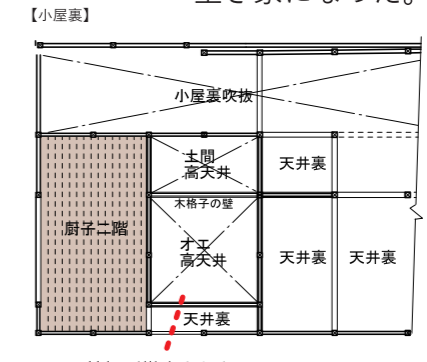


### 修理・整備後

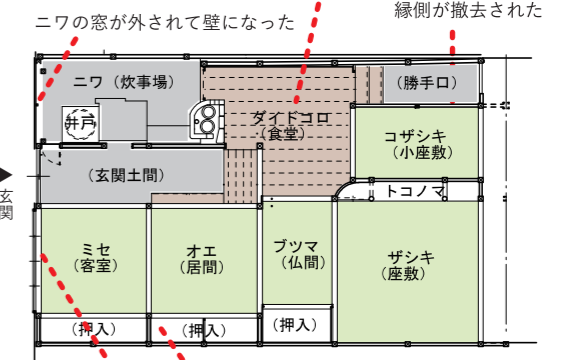


## ④昭和30年代以降

鉱山の大縮小期。主流は島外の鉱山へ移る。\*旧深見家は、以降空き家になった。



神棚が撤去された  
(この頃、改修には新建材が盛んに使われた)  
台所がさらに広げられ、通り土間が分断された  
ニワの窓が外されて壁になった  
縁側が撤去された





## (5) 活用事例

### 事例 ①

### 「佐渡島の金山」を中心とした官民の取り組み

#### ●行政による取り組み

新潟県と佐渡市では、平成18年(2006)から「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録を目指した取り組みの成果として多くの調査が蓄積され、これまでの調査等により文化財の指定、選定、登録等の件数が飛躍的に増加しました。

その中の一つである文化的景観においては、専門家会議や地域住民等との話し合いにより、歴史的な建物の修理・修景等が進められてきました。

平成31年(2019)4月には、佐渡金銀山の歴史や文化財の価値を伝えるガイダンス施設「きらりうむ佐渡」が建設されました。ここを起点に、各地の関連施設を訪ねてもらうことを目的としています。

景観に配慮した平屋建ての館内には観光案内所を設け、レンタサイクルの貸し出しのほか、来訪者に楽しんでもらえる各種イベントや講演会等を行っています。

#### 施設利用者の声

佐渡金銀山の歴史が4つの映像シアターで、わかりやすく学べました。定期的にイベントも行われているので、子ども達にも親しみやすく、相川に新たな魅力が加わってうれしいと喜んでいます。



佐渡金銀山ガイダンス施設 きらりうむ佐渡



重要文化財「松榮家住宅」平成30年指定



まちを知るための企画展（風景展）の実施



建造物の修理・修景

## 佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観

### 事例 ②

### 歴史的な建物等の活用によって街並みを守る活動

#### ●住民や団体等による取り組み

平成22年(2010)に地域住民で結成されたNPO法人「相川京町町並み保存センター」では、鉱山労働者や古くなどへの聞き取り調査、鉱山で使われた石製品の保存、使われなくなった建物の活用等を行っています。これらの長年の活動によって町並みが維持・保全され、佐渡民謡を披露する「宵乃舞」イベントにもつながっています。

また、近年では佐渡市と民間団体が連携協定を結び、歴史資源を活かした地域づくりを推進しています。若手住民で結成された相川車座では、まち全体を博物館に見立て、100年後の未来へまちなみを受け継ぐことを目的に、空き家等を飲食店舗や宿泊施設に改修したり、史跡等でイベントを開催するなどの活動を展開しています。

#### 地域づくりに関わった住民の声

文化的景観をきっかけに、地域に埋もれている資源の掘り起こしが行われました。地域の人と訪れる人との互いに気持ちよく、交流していけるような環境づくりを目指していきたいです。



石造物のまちなか展示



「宵乃舞」が行われる京町通り



飲食店舗への改修（北沢 terrace）



史跡でのランタンイベント

団体等情報：相川車座-100年後もにぎやかな相川を目指すまちづくり <https://aturn.jp>



## 佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観

選定年月日：平成27年(2015)10月7日 面積：630.1ha 選定基準：二(一)(六)(七)(八)

### (1) 概要

相川は、標高約300mの山地から海成段丘を経て狭い海岸低地が続く地形上に位置します。

16世紀末、相川で鉱脈が発見されると急速に鉱山開発が進みました。慶長8年(1603)に佐渡代官に任じられた大久保長安(ながやす)は、上町(かみまち)台地の尾根線に幹線道路を敷き、沿道に大工町など職業別の町立てを行いました。17世紀前半には海岸沿いの下町(したまち)で埋め立てを伴う町立てが行われ、上町と下町とをつなぐ段丘崖に石段等が発達しました。

18世紀に金銀の産出量が激減すると、上町等に散在していた鉱業関係施設が佐渡奉行所内に集約されました。他方で商人の中には廻船業等で財を成す者も現れ、下町には蔵を伴う大規模な地割りの廻船問屋等が並びました。近代には鉱山が三菱へ払い下げられ、上町には間口が広く通りに面して庭を有する社宅も立地しました。下町には相川町役場等の公的機関が立地し、行政機能を持つようになりました。

現在も上町は各町家が短冊状の地割りを継承しつつ、通りに面して平屋構造を持ち、鉱山白などの転用がみられる石積のテラス状敷地を形成しています。下町は旧街道沿いに展開する近世以来の地割りを継承しつつ、海岸部を埋め立て佐渡市役所支所等が配置され、行政機能を維持しています。

当該文化的景観は、上町地区の生産・居住機能、下町地区の流通・行政機能が、金銀採掘の盛衰に伴い動的な関係を構築しつつ展開してきた相川の歴史の変遷を示す景観地です。



春日崎から望む相川の上町・下町



鉱石を運搬するための鉱車の軌道跡

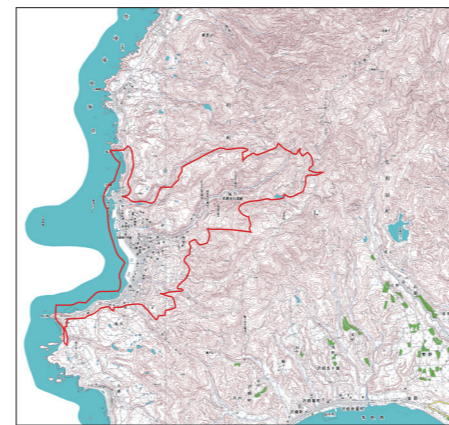


テラス状の敷地に建てられた鉱山住宅(上町)



善知鳥神社例祭の神輿や高張提灯の行列(下町)

### (2) 選定範囲



- 重要な構成要素：79件
- 国指定等文化財
  - 旧佐渡鉱山採鉱施設(重要文化財(建造物))
  - 松榮家住宅(重要文化財(建造物))
  - 佐渡金銀山遺跡(国史跡)
  - 旧相川拘置支所(国登録有形文化財(建造物))
  - 旧相川税務署(国登録有形文化財(建造物))
  - 高田家住宅(国登録有形文化財(建造物))

### (3) 選定による効果

近世期の鉱山発見により発展した相川では、約400年間に渡り採掘が続けられてきました。

平成元年の閉山以後、基幹産業の衰退等により、地域の歴史や文化、アイデンティティの再構築を図るため、約4年の調査によって文化的景観の価値付けがなされました。

選定後は、鉱山町としての景観を後世に継承していくため、住民とワークショップを行い、令和2年(2020)に重要文化的景観の整備計画を策定しました。近年は、民間団体等と連携を図り、古民家の再生や活用イベントの開催などが行われています。



佐渡金山銀山遺跡「道遊の割戸」



住民とのワークショップ

### (4) 保存活用計画などの基礎情報

- 佐渡相川の鉱山都市景観保存調査報告書(平成27年(2015)3月、佐渡市)
- 佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観保存計画書(平成29年(2017)3月、佐渡市)
- 佐渡相川の鉱山及び鉱山町の文化的景観整備計画(令和2年(2020)3月、佐渡市)